

アラームバルブ 自動警報弁、流水検知装置とも言われます。

スプリンクラー消火設備は防火対象物の各階で制御されます。

その要となるバルブがこの **アラームバルブ** です。

標準的なアラームバルブ

湿式

二次側主管

圧力スイッチ

親子弁

圧力計



一次側主管

設置基準 通常は各階毎に、床面積が3,000㎡以下ごとに設置します。

機能 弁体内部は逆止弁になっており、二次側配管の圧力水を支えています。スプリンクラーヘッドからの放水により減圧し一次側の圧力水が弁を押し上げ、流入。この水の動きを捉えて、圧力スイッチの接点を閉じます。

親子弁 標準的なスプリンクラー消火設備では使用しませんが、損保関連の設備や、特に指示がある場合などに使用します。 現在製造中止のメーカーもあります

外側のバルブは通常のドレーンで、**右締で閉 左締で開**となります。

内側の小さいバルブはテスト用、**右締で開 左締で閉**となります。 外側と内側の動きは真逆となります

機能 内側のテスト用を開放することにより、模擬的にヘッド開放状態を作ります。

★ **管末テスト弁との相違** **管末テスト弁**は末端での放水圧力の確認を行い、このテストバルブでは流水による圧力スイッチの**作動テスト**(警報他)を行います。

上記のようにこのアラームバルブは、流水を電気信号に替える機能を持ち、通常はサイレン鳴動や

警報に使用します。ポンプは圧力タンクの圧力スイッチで起動させますので、実火災でヘッドが

爆ぜた場合は、先にアラームスイッチが働き、その後ポンプ起動となります。

ですからその警報により様々なことが判断できます。

表示される警報による事象の判断

- **アラーム弁作動** これらが対に表示された場合、当該階では放水されているか若しくは、水の動きがあります。
- **SPポンプ運転** 当該階の配管に漏水が発生した場合もこの双方の警報が送出されます。
- **SPポンプ運転** ポンプ運転のみ表示された場合、一次側配管のいずれかの場所で漏水等の減圧する要因があります。



スプリンクラー消火設備の **アラームバルブ** について —西日本防災システム

NBS 119

NBS 119

その他 色々なアラームバルブ

予作動式アラームバルブ



予作動式アラームバルブ



千住スプリンクラー製

共同住宅用アラームバルブ



千住スプリンクラー製



西日本防災システム
NISHINOHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>

NBS



弊社top pageへ →

スプリンクラー消火設備の **アラームバルブ** について 西日本防災システム

NBS 119

NBS 119



千住スプリンクラー製

乾式アラームバルブ

湿式アラームバルブ内部



ディスク(弁座)を取り外しています



千住スプリンクラー製

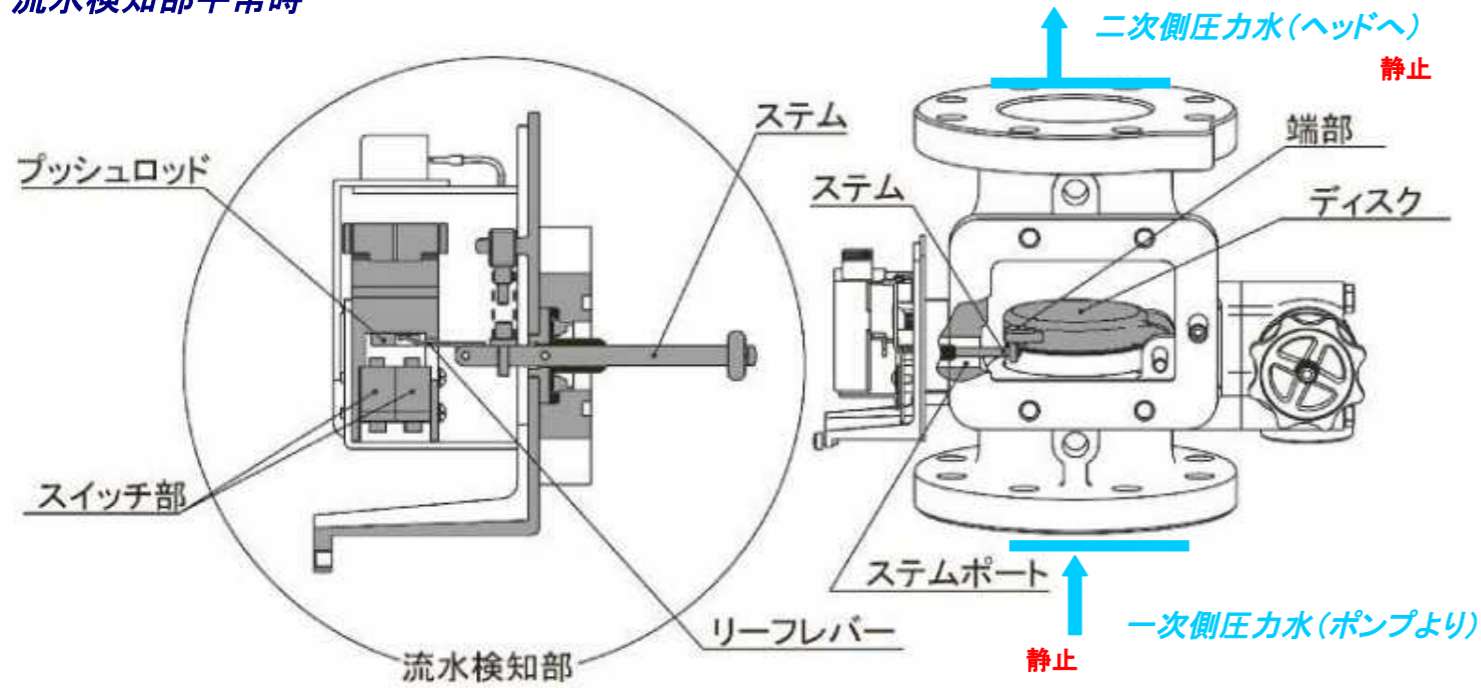
リターニングチャンバー付



NBS 119

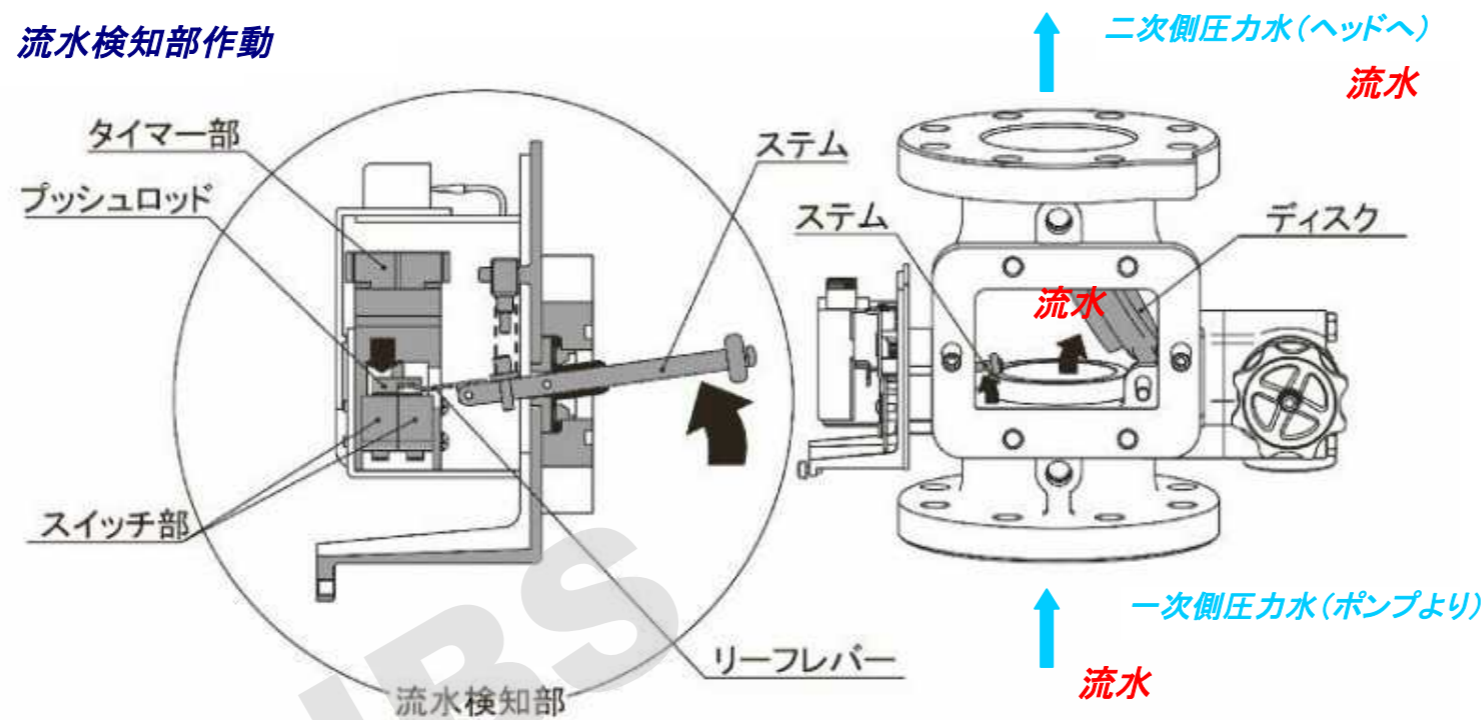
内部の構造

流水検知部平常時



平常監視時

流水検知部作動



流水感知時

